

# 平成27年度 事業報告書

(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

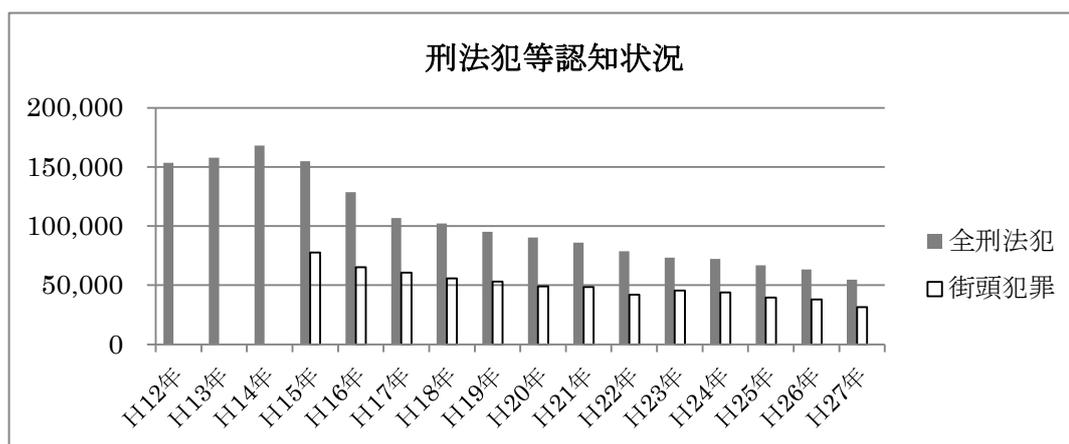
## 第1 平成27年中の犯罪情勢

### 1 刑法犯の発生状況

刑法犯認知件数は、54,663件（前年比-8,596件、-13.6%）で、平成15年以降、13年連続して減少し、戦後最少を記録した。

県民生活の身近で発生するひったくりなどの街頭犯罪についても、31,361件（前年比-6,706件、-17.6%）であり、多くの犯罪が減少傾向にある。

しかし一方では、住宅対象侵入犯罪の忍込みや性犯罪（強姦、強制わいせつ）が増加し、さらには、高齢者の被害が半数以上を占めるニセ電話詐欺は、497件（前年比+225件）、被害総額は18億4,346万円（前年比+5億5,158万円）と過去最悪を更新するなど、大きな治安課題となっている。



### 2 少年非行情勢

刑法犯少年の検挙補導人員は、3,028人（前年比-460人、-13.2%）で全国4位、非行者率（10歳から19歳までの少年人口1,000人当たり刑法犯少年が占める割合）は、6.4人（前年比-0.9人）で全国2位と、年々減少傾向にあるものの、全国的にみると未だ高水準で推移している。

また、スマートフォン等の普及によるインターネットに起因した福祉犯被害や幼い子どもに対する児童虐待事案など、少年が被害に遭う事案は増加傾向にあり、少年問題は世相を反映しつつ新たな課題が生まれる厳しい状況にある。

### 3 薬物乱用情勢

全薬物関係事犯の検挙人員は、1,027人（前年比+153人、+17.5%）で、過去10年間で最多であった。

このうち、覚醒剤事犯の検挙人員が781人（76.0%）と、県内における乱用薬物の主流を占めている。

危険ドラッグについては、関係機関との連携による取締りを実施した結果、平成26年末には店舗型販売業者が県内から一掃されたことにより、デリバリー型販売業者や密売人等による流通の潜在化・巧妙化が窺われていた。

引き続き、関係機関と連携した強力な取締りを実施し、県内に拠点を置くインターネットサイトを利用したデリバリー型販売業者を一掃した（平成26年末・3業者→平成27年末・なし）。

また、大麻事犯については、検挙人員が前年に比べ倍増（検挙人員129人、+64人）しているが、そのほとんどが若者であり、大麻の乱用が若者を中心に拡大する憂慮すべき状況にある。

#### 4 暴力団情勢

警察当局による徹底した暴力団犯罪の摘発により、暴力団構成員の検挙人員は、272人（前年比+17人、+6.7%）と、前年から増加しており、その内容も、工藤會最高幹部らを凶悪事件や資金源犯罪等で波状的に検挙するなど相当の成果を上げた。

これにより、県内の暴力団構成員数は、取締りと連動した各種対策により、平成27年12月末現在で1,480人（前年同期比-80人）と4年連続で減少し、過去最少を記録するなど、県下の暴力団対策は飛躍的に前進した。

一方、全国組織である6代目山口組の内紛分裂に端を発した抗争事件は、各地に拡大する様相にあり、県内においても、傘下組事務所が存在することから、その波及が懸念されるところである。

## 第2 協会運営

### 1 定時総会

平成27年6月16日、福岡市博多区「博多サンヒルズホテル」において開催し、理事の選任及び平成26年度事業報告、収支決算、財産目録について審議、承認された。

### 2 理事会

#### (1) 第1回理事会（決算等）

平成27年5月12日、福岡市博多区「博多サンヒルズホテル」において開催し、定時総会に付議する理事の選任（案）及び平成26年度事業報告、収支決算、財産目録等について審議、承認された。

#### (2) 第2回理事会（予算等）

平成28年3月7日、福岡市博多区「博多サンヒルズホテル」において開催し、平成28年度事業計画・収支予算、関係規程の整備及び定時総会の開催期日等並びに法人事務局長の任免について審議、承認された。

### 3 監査

平成28年5月6日、平成27年度の業務執行状況等について監事による監査を受け、適正かつ妥当と認められた。

### 4 職員研修会

平成28年2月9日、福岡市博多区「博多サンヒルズホテル」において警察本部生

活安全総務課員の出席の下、「地区防犯協会職員研修会」を開催し、公益法人としての事業運営と各地区防犯協会との連携、自転車防犯登録の促進及び適正処理、青パト自動車保険事業の経過及び加入促進について、指導及び意見交換等を行った。

### 第3 防犯対策事業

#### 1 地域安全活動の推進

##### (1) 全国地域安全運動の実施

全国地域安全運動は、例年どおり、10月11日から20日までの10日間実施され、運動期間中にポスターの掲示、防犯スローガン入りの広報啓発物の配布及び新聞・ラジオ等での広報啓発活動等を行った。

##### (2) 「安全・安心まちづくり県民の集いふくおか」の開催

全国地域安全運動の一環として開催する「安全・安心まちづくり県民の集いふくおか」は、10月3日、福岡市東区「福岡工業大学」において、県、県警察との共催により「地域を守る青パト大集合」をメインテーマとして、各地区防犯協会の代表者及び防犯ボランティア団体等約700人並びに各地区の青パト約100台が参加した。

防犯功労者等の表彰、大学生防犯ボランティアによる防犯ディスカッション等のホールイベント終了後、ホール駐車場において、福岡工業大学吹奏楽団による演奏の中、青パト出発式を実施するとともに、青パト活動中の写真やポスター・標語の入選作品を展示するなど、活動紹介、情報交換等を行った。

##### (3) 季節防犯運動の実施

春、夏、年末年始における季節特有の犯罪抑止やニセ電話詐欺をはじめとする特殊詐欺被害防止などの重点に基づき、地区防犯協会や警察と連携して、ニセ電話詐欺、性犯罪、サイバー犯罪等の被害防止のためのキャンペーン等を行った。

##### (4) 性犯罪被害防止対策の推進

ア 県警察の平成27年三大重点目標の一つである「性犯罪の抑止」対策として、「SDE (Self(自己)・Defense(防衛)・Education(教育)) 推進事業」(平成23年から事業開始)を継続し、県警察と協定を締結した推進校に対して、防犯ブザー等を配布した。

##### ○ 協定締結状況

年 度	協定校	防犯ブザー配布数(個)
平成23年	6	1,600
平成24年	125	22,000
平成25年	30	12,000
平成26年	1	10,000
平成27年	0	10,000
計	162	55,600

また、県警察との協働事業として、鉄道駅窓口における「防犯ブザー無償貸出し事業」に対し、防犯ブザーの提供を行った。

(防犯ブザー配置駅；7事業者33駅、累計5,000個)

(5) ニセ電話詐欺被害防止対策の推進

平成27年4月に設置された「特殊詐欺対策プロジェクト」と協働して各種抑止対策を推進するとともに、平成27年6月に発足した「ニセ電話気づかせ隊推進委員会」の一員として気づかせ隊への加入促進を図り、平成27年末には8,292団体、281,458人が加入し、被害を防止した阻止件数は497件(+333件、+203.0%)、阻止額は11億3,135万円(+6億3,451万円)と過去最高となり、大きな成果が認められた。

また、ニセ電話被害を阻止した隊員に対する阻止功労賞への支援、ニセ電話気づかせ大使の任命等、ニセ電話詐欺被害抑止に重点を指向した各種抑止対策を推進した。

(6) 学生防犯ボランティア団体に対する支援

若年層の防犯ボランティアの育成と自主的な活動の促進を図るため、県警察との協働による「学生防犯ボランティア活動促進事業」を平成24年度から継続して実施し、学生防犯ボランティア25団体中14団体に対して活動促進費を交付し、学生防犯ボランティア団体の活動の活性化を図った。

(7) 青パト活動防犯ボランティア団体への支援

ア 青色防犯パトロールを実施しようとする新規団体に対し、活動経費の一部軽減のために青色回転灯の助成を行った。

イ 県警察との協働により「石油販売店における青パト支援事業」を推進し、青パト運行に係る経費の一部軽減を図ることで、青パトを活用した防犯パトロール活動の活性化を図った。

## 2 広報啓発活動の展開

(1) 県防連広報紙「防犯ふくおか」の発行

「防犯ふくおか」は毎月14.7万部、年間約176万7,000部を発行し、県民に犯罪の発生状況や防犯対策、地区防犯協会の活動等各種地域安全情報を提供するとともに、各地区の防犯ボランティア団体の活動状況を紹介するなど、昭和30年の創刊以来、平成28年3月で通算724号となった。

(別表1「平成27年度防犯ふくおか配布状況」参照)

(2) 広報媒体を活用した広報啓発活動の実施

ア 西日本、読売その他新聞各紙を利用して、7月に少年の非行防止、10月には防犯対策や防犯意識の高揚と自転車防犯登録の促進等と呼びかけた。

イ 全国地域安全運動期間中(10月11日～20日)、年末特別警戒期間中(12月中)には、ラジオ局2局(RKB・KBC)で、スポット放送による広報啓発活動を実施するとともに、各地区防犯協会での広報啓発活動への支援として、

放送内容を録音した広報テープを作成・配付した。

ウ 平成28年3月には、西日本及び読売新聞の紙面にニセ電話詐欺・性犯罪防止  
広報啓発記事を掲載し、被害防止を呼びかけた。

(3) 広報啓発資料等の作成配布

地区防犯協会における効果的な地域安全活動推進のための広報啓発用資料として  
チラシ、ポスター、リーフレット等、また広報啓発物等として、防犯ブザー、簡易  
マスク、ポケットティッシュ、メモ帳、のぼり旗、地域安全腕章等を作成し、各種  
防犯活動に活用した。

(別表2「平成27年度防犯広報資料」参照)

### 3 防犯ボランティア地域交流会

地域における防犯ボランティアの育成と活動の活性化を図ることを目的に、10月  
8日、JR九州ホールにおいて、博多区民安全・安心推進大会との共催により、地域  
の防犯ボランティア、専門学校生防犯ボランティア等約400名が参加した防犯ボラ  
ンティア地域交流会を開催した。

### 4 表彰

10月3日開催の「安全・安心まちづくり県民の集いふくおか」及び各地区防犯協  
会(警察署)において、防犯功労者・団体、モデルポスター・標語入選者等138名・  
26団体に対する表彰及び表彰の伝達を行った。

(1) 防犯功労者(個人・団体)

ア 全防連表彰

- 防犯栄誉金章 4名
- 防犯栄誉銀章 8名
- 防犯栄誉銅章 24名
- 防犯功労団体 1団体
- 功労防犯ボランティア団体 1団体

イ 九防連表彰

- 防犯功労者 12名
- 防犯功労団体 2団体

ウ 県防連表彰

- 防犯功労者 42名
- 防犯功労団体 20団体

(2) 全国地域安全運動モデルポスター・モデル標語

ア 県防連表彰

- ポスター(一般の部)  
最優秀賞 1名 優秀賞 2名 佳作 4名
- ポスター(小・中・高校生の部)  
最優秀賞 3名 優秀賞 5名 佳作10名
- 標語(一般の部)

最優秀賞 1名 優秀賞 1名 佳作 4名

○ 標語(小・中・高校生の部)

最優秀賞 3名 優秀賞 4名 佳作10名

(応募総数：ポスター 395点、標語3, 156点)

イ 全防連審査に応募

上記最優秀作品等を含めたポスター25点、標語23点の作品を全国優秀候補作品として全国防犯協会連合会に応募した。

(3) 学生防犯ボランティア団体表彰

学生防犯ボランティア団体活動促進事業の一環として、県警察と協働して支援する団体のうち、その活動が一致協力してのパトロールなど、活発な取組が認められた大学生で構成する2団体を表彰しているところである。

5 少年の非行・被害防止及び健全育成活動の実施

(1) 少年の非行・被害防止活動

少年の非行防止及び被害防止等のために、警察、地区防犯協会及び防犯ボランティア団体等を通じて、少年補導員、防犯指導員等に対する活動支援や広報資料の作成・配布等を行った。

(2) 少年の健全育成活動

ア 内閣府が主唱する「青少年の非行・被害防止全国強調月間」(7月中)に協賛し、福岡県少年非行防止大会(6月)、非行少年を生まない社会づくりキャンペーン(11月)に対する協力・支援を行った。

イ 県警察が主催する少年柔・剣道合宿研修及び県が主催する青少年囲碁大会などのスポーツ・文化事業に対する後援として助成を行った。

6 自転車防犯登録事業

(1) 自転車防犯登録の普及状況

自転車防犯登録は、ここ数年、約29万台で推移していたが、平成26年度に引き続き、平成27年度も減少した。

年 度	登 録 台 数 (台)	増 減 (台)
平成24年	293,866	
平成25年	293,177	- 689
平成26年	288,971	- 4,206
平成27年	270,405	- 18,566

(別表3「平成27年度自転車防犯登録実施状況」参照)

(2) 地域安全活動及び広報啓発活動の推進

全刑法犯認知件数の約22%を占める自転車盗の被害防止や被害の早期回復のため、地区防犯協会や防犯ボランティア団体等による防犯パトロール、自転車防犯診

断等の活動を支援した。

また、自転車利用者に対しては、新聞広告による啓発活動及びチラシを配布し、防犯登録制度の周知・徹底及び防犯登録促進のための広報啓発活動を行った。

(3) 放置自転車等対策への協力・支援活動の推進

放置自転車や違法駐輪の問題解消のため、自治体等関係機関との協力・支援の強化を図り、放置自転車等の早期返還に努めた。

(4) 地区防犯協会等防犯登録所（店）に対する指導・表彰

ア 防犯登録を迅速適切に実施するため、自転車防犯登録所（店）に対する業務指導を実施し、防犯登録手続きの迅速・適正化を図った。

イ 防犯登録に功労のあった自転車防犯登録所（店）48店舗に対し、各地区防犯協会を通じて感謝状を贈呈した。

ウ 防犯登録だよりの発行

平成25年から各地区防犯協会における自転車防犯登録の事務処理能力の向上と適正な登録業務の推進を目的として、Q&A形式を用いた「防犯登録だよりの発行（平成27年度・第22号～第32号の11回）した。

## 第4 風俗環境浄化事業

### 1 県公安委員会の委託事業

(1) 風俗営業管理者講習

風俗営業管理者として必要な法令・知識について講習を実施した。

○ 定期講習

年 度	回 数	受講者 (人)	増減 (人)
平成25年	21	969	- 10
平成26年	21	933	- 36
平成27年	21	945	+ 12

○ 処分者講習

年 度	回 数	受講者 (人)	増減 (人)
平成25年	1	3	± 0
平成26年	1	13	+ 10
平成27年	1	8	- 5

(2) 調査業務

風俗営業許可申請等にかかる営業所の場所及び構造設備等に関する調査を実施した。

○ 風俗営業許可申請

年 度	件数 (件)	増減 (件)
平成25年	430	-89
平成26年	460	+30
平成27年	428	-32

○ 風俗営業変更承認申請

年 度	件数 (件)	増減 (件)
平成25年	69	-44
平成26年	62	-7
平成27年	64	+2

## 2 調査員研修会

(1) 定期研修会

6月19日、福岡市博多区「博多サンヒルズホテル」において、警察本部生活保安課担当者の出席の下、調査員（10名）に対する調査業務の適正な処理等についての研修を実施した。

(2) 臨時研修会

3月14日、風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律が一部改正（公布：平成27年6月4日、施行：平成28年6月23日）されたことにより、警察本部において、生活保安課担当者から調査業務の改正点及び適正な調査についての研修を実施した。

## 3 少年指導委員に対する支援

少年を有害環境から守り、健全育成を図るために活動している少年指導委員に対して、活動時の啓発資料の支援を行った。

## 第5 AMマーク貼付事業

### 1 遊技業の健全化促進

「地域防犯協賛機」の字句を挿入したAMマークの貼付事業を推進し、営業者に適正・健全営業の自覚を促すとともに、不正遊技機の排除に努めた。

### 2 遊技場への立入検査

福岡県遊技業協同組合など5団体で構成する「不正遊技機対策機構」の一員として、遊技場に対する立入検査を実施し、不正遊技機の発見・排除に努めた。

## 第6 青パト自動車保険事業の促進

青パト事業の地域防犯活動の促進を図るため、青パト自動車保険事業を推進し、防犯ボランティア団体の経費軽減に努めた。

## 附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項他、附属明細に記載する事項はありません。